

魅力ある産業を維持・創造するまちグループ



中沢日和さん（穂高東中） 瀧浪幸太さん（三郷中） 若林亜結さん（豊科北中）

【提言の一例】安曇野発祥のグルメの知名度向上のため、「安曇野林檎ナポリタン」を学校給食で提供してはどうでしょうか。

【回答要旨】議員からの質問書を9月に受け、学校給食での提供を検討し、南部学校給食センターで10月18日に「安曇野林檎ナポリタン」を提供しました。議員の提案をきっかけに、今後市内4カ所すべての学校給食センターで提供したいと考えています。若い皆さんが学校給食で気軽に安曇野林檎ナポリタンに親しむことで、安曇野ならではの食として魅力を高めるとともに、ご当地グルメとして定着を図っていきます。

協働によるまちづくりの推進グループ



守屋咲芭さん（三郷中） 関怜奈さん（明科中） 西尾耕太さん（豊科南中）

【提言の一例】さまざまな立場の人の意見が反映されるよう、市議会議員選出の際に年代や性別により定数を分けるのはどうでしょうか。

【回答要旨】選出に一定の条件を設けた場合、1票の重みが違ってしまう場合や平等主義に反する恐れがあるため、公職選挙法と照らし合わせ、慎重に検討する必要があります。また、多様な意見を届けるには「将来議員になりたい」と思う人材を増やすことも重要です。皆さんには選挙の仕組みや政治参加の意義を学ぶ主権者教育を推進し、政治や選挙に関心を持ってもらいたいと思います。なお、市議会では定例の市議会を傍聴できるほか、意見交換会なども行っています。今後も市議会を身近に感じられる取り組みを進めていきたいと思っています。

自然環境を大切にするまちグループ



山田真廣さん（豊科北中） 百瀬幹太郎さん（堀金中） 村田裕哉さん（穂高東中）

【提言の一例】汚泥から発生するガスや熱の再利用およびリンや窒素を肥料に加工するのはどうでしょうか。

【回答要旨】「アクアピア安曇野」では、汚泥を原料とした消化ガスを発電エネルギーとして利用し、処理場の電気使用量の約3割を賄っています。また、脱水した汚泥はセメント原料として活用しています。ご指摘のとおり、下水道中には多くのリンが流入していますが、コストが掛かることや流通などが課題となり、有効利用量は1割程度に過ぎません。リンの全量を輸入に頼っている日本において、リンの資源化は強く求められていますので、今後需要者とも連携しつつ、循環型社会の構築につなげていければと思います。

「ヒロシマ」から平和を学ぶ

広島平和記念式典参加事業

過

去年に起きた戦争の悲惨さを実際に自分の目で見ることで、平和について学び・考え・行動するなど、平和に対する意識の高揚を図るため、市では中学生を広島平和記念式典に派遣しています。

今年度は市内中学校から28人が参加し、8月5日・6日の2日間、広島を訪問しました。広島平和記念式典への参加のほか、原爆ドームや広島平和記念資料館の見学などを通じ、戦争の恐ろしさや平和を願う人々の思いなどを学びました。

この事業に参加した生徒は、体験を通して学んだことや感じたことを作文にまとめています。作文は総務課（2階9番窓口）または各図書館で閲覧できます。今号では、平和について考える機会として、作文の一つを紹介합니다。

第

8回平和のつどい・戦没者追悼式を11月17日、豊科公民館で開催しました。当日は、遺族会関係者や一般市民・市内小中学生など約400人が戦没者をしのび、追悼の祈りをささげました。

また、中学生による作文発表や小中学校の合唱部による合唱などが行われ、参加者は平和や人権の大切さをあらためて考えました。

固総務課行政管理係

長寿社会課福祉政策担当

TEL 2253 FAX 71・2328



式典で祈りをささげる生徒

あたり前ではない平和

広島平和記念式典参加体験文集より紹介

明科中学校 上原達也さんの作文

僕は8月6日に行われた広島市の平和記念式典に参加して戦争は過去に行われていて自分からは遠くはなれていてものという考えが変わりました。

被爆体験記朗読会では三つの詩を読んでいたが、ぼくは「げんしぼくだん」という詩が特に印象に残りました。

「ひるがよるになつて」というところから原子爆弾のとてもない威力が分かりました。そして「ひとがおぼけになる」というところからは一瞬で人間の形を失うことが伝わってきた。原子爆弾のおそろしさを感じました。

平和記念資料館見学では原子爆弾で変わった広島の様子が分かりました。原子爆弾によって全身焼かれてしまった、なんとか生きのびた人々も後遺症により亡くなりました。これからやりたいことや夢などもあったと思います。しかし、その人々の思いを一瞬で原子爆弾はうばいました。展示物をみているとある一枚の絵が目に残りました。それは女の子が空に向かって口をあけ黒い雨を飲んでる絵でした。その黒い雨は爆発と同時に発生するキノコ雲の上昇気流によって放射能の灰をいっぱいふくんだ雨だったのです。被爆した人々は体中が熱いため水が欲しくて放射能をふくんだ黒い雨を飲んで亡くなってしまったそうです。雨を飲んでしまうほど体中が熱く苦しかったことが分かりとても悲しい気持ちになりました。

翌日、8月6日には平和記念式典が始まりました。そこには外国の方々も参加していました。日本だけでなく世界で平和の意識が高まっていることをよく知れました。二度と戦争をおこしてはいけないうと受けているのは人間だけではないと思いました。

それは原爆ドームと被爆したアオギリです。原爆ドームを初めて見たときは写真で見ると迫力がありませんでした。原子爆弾がその上空約580メートルのところ爆発し、爆風が真上からつきぬけたこの建物は、ドーム型の鉄骨と外壁の一部だけが残りました。原子爆弾の威力をこれからも伝えるためには絶対に残し続けなければいけない建物だと思いました。被爆したアオギリは原子爆弾の熱によって木の幹が焼けこげ、それを包みこむように樹皮がもじり上がり、新しい幹が育っています。当時何十年も草木は生えないだろうといわれていたけれど、翌年の春この木が芽ぶいたそうです。たくましく生きつづけているアオギリは現在の人々に生きることのすばらしさと平和の尊さを訴えつづけています。

ぼくはこの2日間を通して戦争は遠い昔に行われたことではないということを感じました。原子爆弾によって一瞬で命を失ったたくさんの人々の願いをこれからもずっと受けついでいき、絶対に戦争をおこしてはいけないうと思ひました。そしてこの世界が平和になるために学んだことを家族や友だちに伝えていきたいです。